

かいぐんつきこうくうきち いなどうえんたい 海軍築城航空基地 稲童掩体

所在地 / 行橋市稲童
指定 / 県指定史跡



海軍築城航空基地 稲童掩体



解説看板

行橋市稲童に残る掩体は、日本がアメリカや中国などの外国と戦争をしていた1944（昭和19）年、築城飛行場の飛行機を空襲（※1）から守るために造られたコンクリートの建物です。

福岡県は中国や韓国に近く、外国との重要な窓口であったことから、1919（大正8）年、福岡県で最初の飛行場が大刀洗町に造られました。1936（昭和11）年には福岡市東区雁ノ巣に飛行場が造られ、中国や東南アジアなどを結ぶ日本最大の国際空港として利用されました。外国との戦争が激しくなると、福岡県内には軍の飛行場がたくさん造られました。その内の一つが築城飛行場（※2）です。戦争の終わり頃には、築城飛行場の周辺も空襲があり、多くの方が亡くなりました。空襲の跡が、民家の壁や神社などに今も残っています。

1945（昭和20）年、戦争が終わると旧軍に関する周辺の建物は次々と解体されましたが、稲童掩体は地域の歴史や平和を語るための大事な文化財として、地元行橋市の努力により保存する事が決まり、遺跡公園になりました。掩体の壁や出入り口近くには空襲を受けた跡が残っており、戦争の悲惨さを物語る資料として平和学習に活用されています。

※1 空襲：空中から、目標に対して爆弾などを投下すること。

※2 築城飛行場：現在は自衛隊の飛行場として使われています。

【もつとくわしく調べたい】

○行橋市歴史資料館 行橋市中央1丁目9-3

○大刀洗平和記念館 朝倉郡筑前町高田2561-1